



新年のご挨拶

国土地理院北陸地方測量部長

吉 池 健

平成23年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本測量協会北陸支部ならびに会員の皆様方には、平素より国土地理院の測量事業や測量行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、北陸地方測量部が主催する「とやまみんなの地図作品展」を、北陸支部の全面的な協力を得て、「とやま地図作品研究会」を設立し引き継ぐことができました。研究会は、現在、富山大学准教授の大西会長をはじめ40名の個人会員と13団体の特別会員が加盟しています。北陸支部におかれましては、特別会員として登録され、強力なバックアップ体制をとっていただきました。心より御礼申し上げます。

富山における児童生徒の地図作品展は、平成19年度に開催した「地図展2007 in 富山」を盛り上げようと、地図展の一環として「児童・生徒地図作品展」に取り組んだことに始まります。昨年の「第4回とやまみんなの地図作品展」は、前年を上回る15校から137点の地図作品が寄せられ、16点が入賞、11月末の週末に、大規模商業施設のファボーレにて表彰式と作品展が行われました。このような地図作品展は全国各地に11団体ほどあり、「全国児童生徒地図作品展連絡協議会」を結成しています。昨年末には、「第14回全国児童生徒地図優秀作品展大臣表彰作品選考委員会」が開催され、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞が決定しています。「とやま」からも推薦していましたが、残念ながら入賞はなりません。1月8日には、つくば市の国土地理院で開かれる全国協議会総会に大西会長が出席し、「とやま地図作品研究会」として全国協議会に正式に加盟することになっています。

児童生徒が取り組む地図作品展は、地図作品の作成を通して、地図についての正しい理解や地理的思考力を高め、自主的な研究活動を通じて社会的なものの見方や考え方を育むものであり、地理空間情報高度活用社会を展望した人材育成の観点からも、息長く取り組んで行く必要があると考えています。北陸地方測量部としましても、今後は後援としてできる限りの応援をして参る所存です。

さて、昨年の測量界を振り返ってみますと、9月には、準天頂衛星の初号機「みちびき」の打ち上げがあり、横浜において「G空間EXPO」が開催されるという二つのビックイベントが成功を収めました。「G空間EXPO」の展示やシンポジウムの様子は、機関誌「測量」の紙上で詳しく取り上げられており、ここでは述べませんが、「みちびき」についても機関誌「測量」を注目して行きたいと思っています。

「みちびき」は、打ち上げ後、順調に予定の軌道に投入され、初期機能確認が終了し、昨年12月1日から技術実証・利用実証に入っているそうです。国土地理院では、実験のトップをきってLEX信号を用いた高精度測位補正の技術実証を行っています。電子基準点網のデータから全国の電離層遅延、対流圏遅延等の補正情報を生成し、準天頂衛星経路でリアルタイムに国土全域に配信して、センチメートル級の測位精度を実現するもので、国土地理院の開発によるものです。今後、北陸管内においても「みちびき」の利用実証に参加する大学や企業等も予定されており、その結果が楽しみです。

ところで、早いもので平成19年に「地理空間情報活用推進基本法」が成立・施行されてから、5年目に入ろうとしています。政府の「地理空間情報活用推進基本計画」では、平成23年度が最終年度になっています。この間、国土地理院では、公共測量作業規程準則の全面改定や基本測量長期計画の見直しを行うなど、基本法の理念を実現するべく、国土地理院として執るべき施策を立案、実行に移してきたところです。現在、国土地理院では、平成23年度までに、全国の都市計画区域(約10万平方km)について、縮尺レベル2500以上の精度で、基盤地図情報を概成するために、全力で取り組んでいます。

地理空間情報の高度な活用を図って行くためには、GISやGPSなどの地理空間情報技術やIT技術などが不可欠であるのと同様に、基盤地図情報が整備され、それに基づいて整合の取れた地理空間情報の構築が全国で行われて行くことが必要です。国土地理院では、基本測量長期計画において、従来の2万5千分の1の地形図に替わって、この基盤地図情報と整合の取れた電子国土基本図を整備する計画を進めており、平成24年度中に全国の地図情報を概成するとしています。

基盤地図情報をいつも新鮮に保ち、その精度の向上を図って行くことが、今後の地理空間情報活用推進の鍵を握っていると言っても過言ではありません。そのために、基盤地図情報の更新データが都市計画図などの他の地図情報に反映され、また、他の地図情報の更新データが基盤地図情報に反映され更新されるという仕組み作りが重要で、国及び地方公共団体等の関係機関による連携・協力が不可欠です。

平成23年度の国土地理院重点施策では、『どこでも安心して快適に過ごせる活力ある社会』の実現に向け、地理空間情報を『新たな資源』として高度に活用するとともに、①どこでも自分の位置がわかる仕組み作り、②自分の周りに何があるかわかる仕組み作り、③災害等緊急時にも何が起きているか速やかに分かり安心して暮らせる仕組み作りを進めるとしています。そのための具体として、①では、最新宇宙技術を活用した高精度位置情報基盤の確立と、場所情報コードの活用推進、②では、基盤地図情報と電子国土基本図の一体的整備及び更新のための仕組み作り、及び電子国土と整合が取れた土地利用等の基礎的な地理空間情報の整備、③では、測量用航空機のくにかぜⅢを用いた被災地画像等の提供などを行うこととしています。

北陸地方測量部としましては、地方公共団体等と連携し、公共測量に該当する測量成果はもちろんのこと、法定図書の電子データ等を積極的に利用して、基盤地図情報の更新が進むような仕組みを作って行きたいと考えています。また、平成23年度も引き続き「地理空間情報活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」の事務局として、年2回の本会議の開催を中心に、管内の情報交換、意見交換を活発に行うことを基本にして、測量及び「基本法」に係る施策を進めて参ります。また、昨年、政府（地理空間情報活用推進会議）が作成した「地理空間情報の活用における個人情報の取り扱いに関するガイドライン」と「地理空間情報の二次利用促進に関するガイドライン」の二つのガイドラインについて、地方公共団体等が安心して地理空間情報の円滑な提供・流通が図れるように、県・市町村の測量担当者による会議等において周知を図り、併せて公共測量手続きなどの啓発を強化して行こうと考えています。

本年も、北陸地方測量部職員一同、北陸地方の測量関係のニーズにお応えできるように頑張っていく所存です。産学官連絡会議や講習会、測量の日関連の取り組み、「とやまみんなの地図作品展」などにおいてお世話になりますが、会員の皆様のご理解とご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、日本測量協会北陸支部のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。